

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295400010		
法人名	社会福祉法人陽翔会		
事業所名	グループホーム ひざり (西ユニット)		
所在地	静岡県島田市金谷代官町802-16		
自己評価作成日	平成22年3月1日	評価結果市町村受理日	平成22年4月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2295400010&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡県静岡市駿河区馬淵2-14-36-402
訪問調査日	平成22年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は開設2年目です。まずは職員個々が認知症の方を介護するプロとして必要な知識を身につけていくこと、法人理念である「そのひとらしく」を事業所全体としてどのように理解し、共有し利用者の日々の生活に生かして行くかに重点を置いております。具体的には「説得より納得」というケアが職員個々出来、利用者一人ひとりのリズムに合わせた業務計画が出来るようになっております。
また、ご家族様との関係を重視し、ご家族様のご意見を面会の時等お聞きし、利用者様の今の状況をご家族様とも共有していくことをしております。近隣との関係につきましては、まだまだ未熟な点もありますので、今後地域運営推進会議等を通し、事業所としていかに地域と関わっていくかとなります。
外出・外食は積極的に取り組んでおります。月に一度調理・日常的なおやつ作り・配食も行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

旧・金谷町で初めて開設された地域密着施設ということもあり、行政を含め地域の方々大切にされている。認知症対応のできる職員を育てることを重点課題とし、実践者研修には年1回必ず参加するようにしている。また、家族とは「情報共有しながら同じ目線で」、地域では「地域資源の活用機会を多く持つこと」に努力している。利用者の生活に寄り添ったケアができることを目指し、昨年センター方式も導入した。今後の大きな課題としては、管理者やリーダーの指示範囲を減らし、自ら考え行動する＝自律した人材を育成することである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様お一人ひとりの意思を尊重して、その方らしい日々の暮らし方を提供できるように取り組んでいる。	管理者は、職員一人ひとりに「〇〇さんのその人らしくというのは何だと思えますか？」というようにオープン質問を繰り返し、自ら考えるように促している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元のスーパーや公共施設・公園への外出により、地域の方々と交流を図っている。	自治会に加入している。自治会長が広報を届けてくれる。地域との協働の実績はまだないが、散歩や買い物など生活の中での交流は充実している。	積極的に小さなことから関わりをもつことを期待する。例えば、アクティビティに使う牛乳パックが要ることを自治会の回覧で告知してもらうなど。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今後の取り組み課題。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎に地元地区の方やご家族様・島田市長寿介護課・地域包括の担当の方と運営状況等報告し、話し合いその内容や情報を職員間で共有化している。	「省エネで玄関の照明を消していたが、会議でアドバイスをいただき点灯するようにした」「職員の倫理的な指導」など、会議でのアドバイスや意見が運営に大いに役に立っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今後の取り組み課題。	些細なことでも連絡をとるようにしている。また、来年度は地域密着型サービス運営委員会の視察も受け入れることになっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアル整備済み。 全職員にまで浸透していないが、各事例毎に高速とならないケアを心がけている。	ゼロ宣言をしている。内部研修を年1回はするようにしている。具体的には、スピーチロック、ドラックロックを含め身体拘束がどういったものかを周知させている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法律の細部までは理解できていないが、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	未実施。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時管理者が対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付箱の設置、ご家族アンケート実施予定。ご家族からの要望を文書・面接等にて受け付けている。	これまでは相談や要望について記録をとっていなかったが、シートに落とし込むようにした。いただいた要望については管理者が責任をもって着地点を確認している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面接時または全体会議での機会を設けている。	月1回全体会議があるが個人意見がでにくいので、リーダー会議やユニット会議などでの声を拾うよう努力している。また、代表者と管理者とで三者面談を年2回行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の面接等で職員の意見を聴く機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が研修会を通して実施。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今後の取り組み課題。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めている。	理美容についてはなじみがあれば家族にお願いしている。友人や家族、親戚の方がいらした場合は、居室や食堂などでゆっくりお話いただくようお茶を出すなどしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	未実施。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の気になる言葉や状態の変化等記録し、 申し送りノートを活用し把握に努めている。	経過記録をこまめにとることにより、心身の状態や気持ちの変化を把握するようにしている。主担当は決めてはいるが、職員は全ての利用者を担当している気持ちで取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会時にご家族様やご友人の方々との会話の中から、大切な情報を得ながら共有化している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の経過記録の記載務め、情報を各自把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議にて検討し、ご家族の面会時にプランについて説明し、意向を伺い反映している。	あらかじめポイントを絞ったレジュメを配布することで、1時間という短い時間ではあるが、内容のある会議が開催できている。また、夜勤明けの職員も協力し全員参加を旨としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録をすることが主体となり、そこからプラント連動しての見直しまでは至っていない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	未実施。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元のスーパーへの買い物へ行ったり、公園や図書館を利用して豊かな生活を支援している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望があれば今までのかかりつけ医に行くことで安心していただきたい。	なじみのかかりつけ医への受診を勧めている。基本的には家族にお願いしているが、家族の都合によっては職員が代行している。医療内容は「介護日誌」に記録している。大きく変化があった場合は「連絡ノート」にも記入している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師未配置。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	その都度ご家族様と話し合いながら取り組みを行っている。	重要事項説明書に記載がある。それに基づき「できること」「できないこと」について説明している。状態変化があった場合は、都度話し合いをもつようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルにて勉強(各自)実践は今後の検討課題。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルの活用。 年2回以上の防災訓練の実施。	防災計画書を年2回以上行っている。レトルトや水など3～4日分の備蓄もある。	今後は、夜間訓練を含み、条件設定を替えた訓練の実施を期待する。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人ひとりの性格に合わせ、又その時々 の状態に沿って言葉かけを行っている。	「〇〇さん」と、下の名前で呼ぶことが多い。 呼ばれたい名前のある方には、要望に添っ ている。その日のその方の表情や声のトーン に合わせ、同調とスキンシップ、距離感など を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	ご本人の同意を得てから支援し、無理には 行わない事を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切にし、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・排泄・入浴介助がケアの中心にはな るが、状態が落ち着いていれば関わりあい ながら希望をお聞きし支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備 や食事、片付けをしている	行っている。	料理が得意な利用者とおやつづくりを一緒 にしている。また、献立をたてる際にも、ADLに 合わせ全員が参加して作ることのできるメ ニューを盛り込むようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎月のユニット会議において、お一人ひとりの排泄リズム・パターン・状況等に応じ検討している。	時間、種類、自立について排泄チェック表をつけている。ケースによっては水分摂取量も記録している。個々の排泄パターンに合わせてトイレの誘導をしており、日中に失禁がなく、トイレで気持ちの良い排泄ができるよう心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の量・回数・形状を記録し、下剤でのコントロールを行っている。(水分コントロール含め)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	支援している。	ゆずやバラなど様々な種類の入浴剤が選択できる。また、本物のゆずなど、季節感が味わえるかわり湯も取り入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その時の状況で活動したい方が優先されるが、家事支援・外出支援・レク活動等を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	他入居者の方々の状況にもよるが、天気が良く体調の良い時は、外出をして気分転換を図り、又活動計画にて近隣公共施設への外出も支援している。	お天気がよい日は、短時間でも散歩に出向くようにしている。季節によっては散歩が少なくなるので、外食やドライブで気分転換できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設側で預かり金として管理し、職員が代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の草花を飾ったり、手作りの小物を置いたり、暖かく家庭的な雰囲気作りをしている。	空気の入れ替えや温度、湿度に配慮している。利用者の家族や友人が届けてくれた手芸小物が家庭的な雰囲気を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事席の配置について、入居者様どうしの人間関係を考慮して配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にその方の馴染みの生活道具、タンス等を持参していただき、暮らしの中の写真や昔の写真を飾り楽しんでいただいている。	各部屋にはトイレとベッドが設置されている。タンスやその他小物は好みをものを持ってきている。カーテンも好みのものを使用している方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所について、分からずに聞く方が何人かいらっしゃり、その都度案内をしているが、表示の工夫が必要である。		